

まちづくりキャッチフレーズ **人と自然と文化がつくる「キラリと光る新中核都市」**



くだがゆ 生田の管粥神事

～願うは今年も大豊作！！～

「管粥」は、市の無形民俗文化財にも指定されており、毎年旧暦の小正月（今年は2月8日(日)、9日(月))に生田集落で行われています。あらかじめ刻み目を入れた竹管12本と、1升3合の米を、手順に従って一緒に煮立て、翌朝、その竹管を一本一本出刃包丁で割り、中に入った粥の量で今年の農作物の豊凶を占う伝統行事です。

今年の占い結果は、「麦、綿は不作。小豆、大豆、トマト、米は豊作。全体を占う『大年』は平年並み」と出ました。桑本圭二生田自治公民館長は「これで今年も安心して米を作ることができる。これからもこの行事を伝承していきたい」と嬉しそうに語っておられました。

この結果は、地元住民により、1時間程度で260枚の紙に書き写され、その日の内に地域の各世帯に配られました。

▲竹管を割り、詰まっている粥の量を見る水谷 稔さん(64)、水谷栄之進さん(71)、水谷 浩さん(57)(写真左から)

撮影場所：水谷忠正さん宅

C O N T E N T S

- 倉吉駅の橋上化工事……………2～3
- 定住自立圏構想……………4～5
- 国民健康保険・長寿医療制度……………6～7
- インフォメーション・プラス……………8～11
- インフォメーション……………12～14
- 国際交流員 金 善夏さん……………15
- あんしんファイル……………16～17
- レッツ！介護予防/家庭教育……………18
- ハート・バリアフリー……………19
- 出かけてみよう……………20～21
- まちかどピンナップ……………22
- 遥かなまちへ/各種表彰……………23
- 若者の定住に向けて/人口……………24



倉吉駅の橋上化工事が始まります



◀自由通路イメージ図(南側を望む)



◀自由通路イメージ図(南側から北側を望む)

※問合せ先：倉吉駅周辺整備事務所(TEL 26-2823 / FAX 26-2831)

1月9日(金)に開催された市議会臨時議会において、倉吉市とJR西日本の間で、倉吉駅橋上化工事の委託協定を締結することが承認されました。

これにより、いよいよ自由通路建設、駅舎改築、地域交流センター建設に着手することになります。

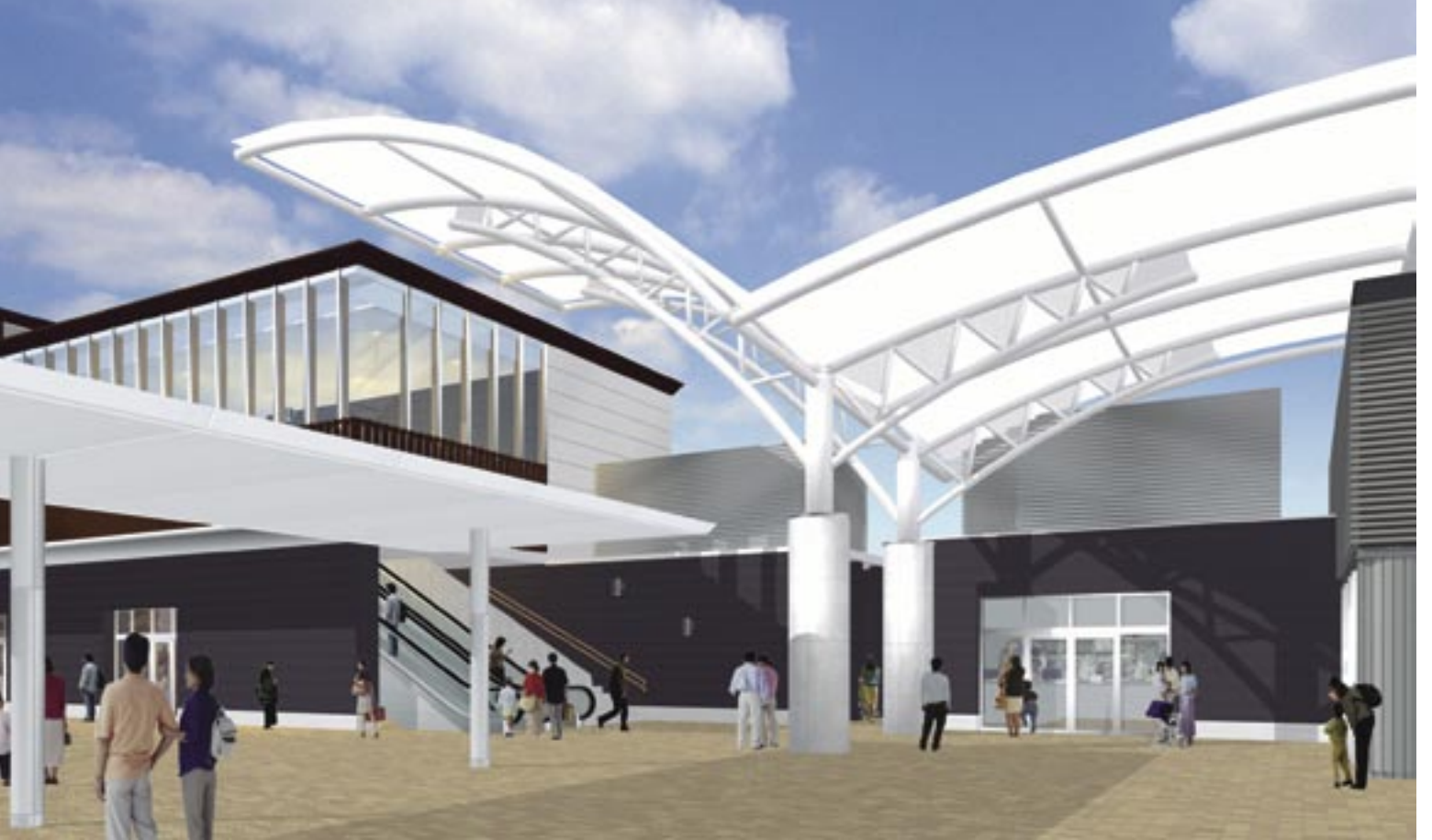
まず、東側噴水付近の仮設工事から着手し、6月ごろから仮駅舎の建設に取り掛かります。

そして、平成22年1月ごろから自由通路・駅舎・地域交流センターの西側(多目的ホールなど)の工事に入り、同年10月ごろの完成を予定しています。

その後、地域交流センター東側の工事に移り、観光物産店舗や、観光案内、市窓口などは平成23年1月から着工し、8月ごろに完成する予定です。

これらに伴い、平成22年度に北口広場を新設、平成23年度には南口広場も改修します。

平成24年3月には全ての整備を完了する予定です。



▲南口エントランスイメージ図

新しい駅の特徴

●バリアフリー化されます

- ・1階床は広場通路と同じ高さになり、段差がなくなります
- ・エレベーターを自由通路南口・北口および各ホームに設置
- ・誘導経路には、各所に点字付き案内版を設置
- ・階段には2段手すり(点字案内付き)を設置
- ・トイレは、男女別々と多機能トイレ(ベビシート、オストメイト対応などを設置)を整備
- ・エスカレーターは、南口に上り下り用、北口には上り用を設置

●観光案内・行政サービス機能を強化します

- ・観光案内を「ほっとプラザ」から移転し、中部観光の発信拠点として強化
- ・市窓口機能(住民票などの行政サービス)の強化
- ・梨の花温泉郷の玄関口としてのイメージが向上

●南北の自由な歩行者往来と北側からの直接駅の利用ができるようになります

- ・北口には、広場(約3,000㎡)を整備(駐車場(一般用16台、障がい者用2台、タクシー4台)、駐輪場(210台))
- ・駅より北側地域への通勤・通学者や、駅への送迎車の北口利用による、駅南口から踏切までの混雑(車、自転車、歩行者)の緩和

●地域交流センターの設置により賑わいの創出を図ります

- ・観光物産館を設置し、地元製品のアピール
- ・1階に多目的ホールを整備し、交流活動を推進
- ・2階に交流ホールを整備し、ゆっくりとした待合を創出

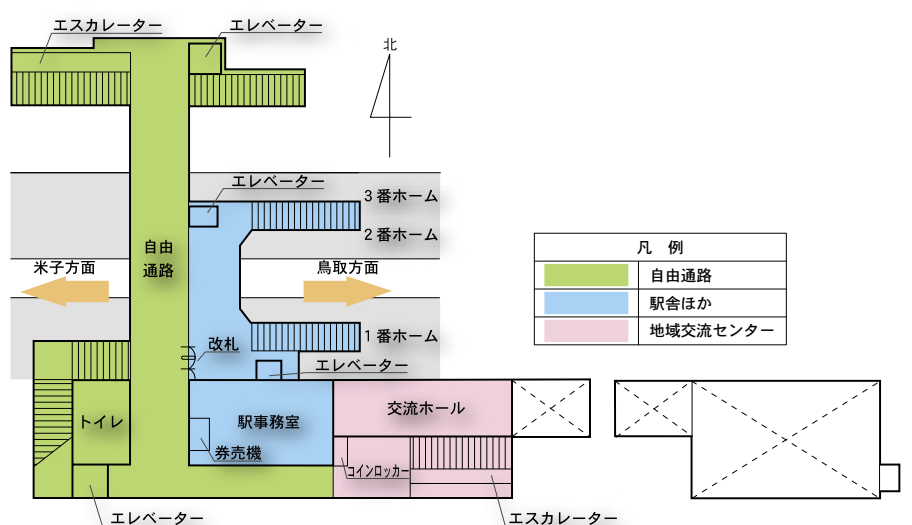
●そのほか

- ・バス降車位置を駅に近づけます

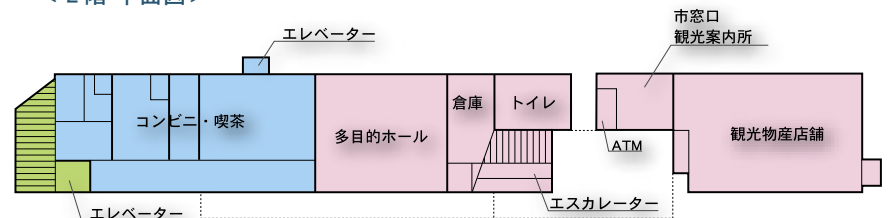
▼倉吉駅橋上化工事の予定

	20年度	21年度	22年度	23年度
仮設・仮駅舎				
自由通路・駅舎				
地域交流センター				
北口駅前広場				
南口駅前広場				

▼倉吉駅完成予定平面図



< 2階 平面図 >



< 1階 平面図 >

倉吉市は中部4町とともに

「定住自立圏」を目指します

～1月22日に先行実施団体として追加決定～

※問合せ先:総合政策室(☎22-8161/☎22-8144)

現在、全国の地方自治体は、独自の力で地域の魅力や生活機能を高めることに、限界を感じざるを得ない状況になっています。

「定住自立圏構想」は、「中心市」と「周辺市町村」で圏域を構成し、それぞれの市町村が、連携して役割分担することで、全体の地域力、総合力を高めることを目的に総務省が提唱しているものです。

倉吉市では、この構想の取り組みを推進するため、総務省と協議を行ない、1月22日(木)に、鳥取県中部圏域である1市4町の「中心市」として先行実施団体に追加決定されました。

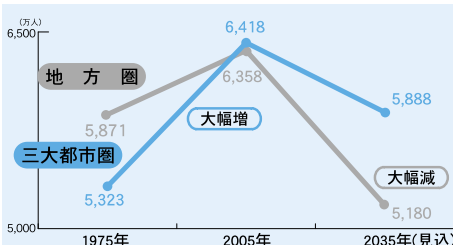
地方圏の厳しい現状

人口減少

少子高齢化

(2005年→2035年)
 総人口は、約**13%減少**見込み
 (約12,776万人→約11,068万人)
 年少人口は、約**40%減少**見込み
 (約1,759万人→約1,051万人)
 高齢者人口は、約**45%増加**見込み
 (約2,576万人→約3,725万人)

大都市圏への
人口偏在



基本的考え方

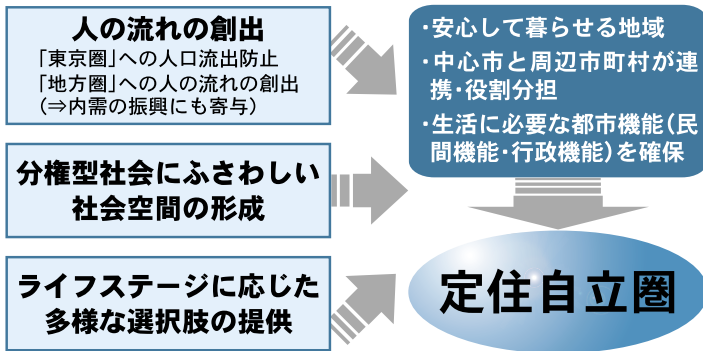
選択と集中

- 全ての国民にとって、必要な機能を確保しつつ、地方の自主的な取り組みを重点支援
- 単なる地方のパラマキではない考え方

集約とネットワーク

- 全ての市町村にフルセットの生活機能を整備することは困難に
- 中心市が圏域全体の暮らしに必要な都市機能を集約的に整備し、周辺地域と連携・交流

目指すべき方向



「定住自立圏構想」の背景

わが国は、平成17年までの30年間で、総人口が1,582万人増加しましたが、今後30年で1,708万人減少すると見込まれています。

これまでは、三大都市圏の人口が1,095万人と大きく

増加し、地方圏も487万人増加しました。しかし、今後は三大都市圏が530万人の減少に転じ、地方圏に至つては、1,178万人と大きく減少する見込みで、地方圏の将来は極めて厳しい状況にあります。

また、わが国は、

- ①少子化・高齢化と人口減少
- ②地方圏から東京圏への人口流出
- ③新たなライフスタイルを求め動き
- ④グローバル化の中での地域経済の低迷
- ⑤市町村合併の進展と地方分権の流れ

などの現状が見られます。これらを踏まえ、

▼東京圏への人口流出防止と地方圏への人の流れの創出

▼分権型社会にふさわしい社会空間の形成

▼ライフステージに応じた多様な選択肢の提供

が求められています。



▲第1回「定住自立圏構想」推進会議(1月30日(金))

そこで、総務省が提唱するのが、「定住自立圏構想」なのです。
鳥取県中部圏域の「定住自立圏構想」

「定住自立圏構想」は、まず、人口5万人程度以上、昼夜間人口比率1以上の中心市と隣接する市町村が、協定を結びます。

そして、その協定に基づき、相互に連携して役割分担を行うことで圏域全体の暮らしを支え、魅力を向上させることにより、圏域からの人口流出、都市部からの人の流れの創出を図ります。そこからライフステージに応じた多様な選択肢の提供することもできるよ

うになります。

倉吉市を「中心市」とした、鳥取県中部圏域である1市4町は、1月22日(木)に、総務省から先の実施団体に追加決定されたのを受け、「定住自立圏構想」推進会議を1月30日(金)に開催しました。

会議では、各市町の首長により、圏域の結びつき、連携を強化してこの構想を積極的に推進しようという意思決定がなされました。

今後は、観光、公共交通ネットワークなどの施策で、各市町の役割分担を図り、連携して取り組めるものを検討し、今まで以上に圏域の結束強化を図ろうとしています。

中心市となる本市では、3月末に中心的な役割を果たす意思表示として、「中心市宣言」を行う予定です。

また、平成21年度中に「定住自立圏」を形成するよう、協定の締結を目指しています。

さらに、協定に基づき中心市が策定する「定住自立圏共生ビジョン」では、圏域の将来像や具体的取り組みをまとめます。これは、民間の代表や地域の関係者からも意見をいただきながら、早い段階で作成し、圏域内で相互に連携した具体的な取り組みを進めることにしています。

定住自立圏構想推進の流れ

